

平成29年九州北部豪雨

久留米市（ボランティアバス） 災害支援ボランティア

平成29年7月の九州北部豪雨の災害支援として、久留米市社会福祉協議会と久留米市の共催で、ボランティアバスを運行しました。

7月13日から10月7日まで、延べ754人の世代を超えた数多くの市民ボランティアが、朝倉市で家屋の泥だしや側溝の清掃などの活動を行いました。参加者に、ボランティアに参加するきっかけや想いなどをお伺いしました。



01 ながい たかのり 長井孝仁さん。

朝倉市の隣の嘉麻市に祖父がいるため、他人事ではないと感じ、大学の夏休みを利用して災害支援ボランティアに参加。

ボランティアを通して出来た絆

被災にあわれた方々は、大変な状況にも関わらず、とても親切で逆に私達が励まされました。現地は前向きな方が多く、土のう袋に「ボランティアさんありがとう」というメッセージが書いてあり、胸を打たれました。また、作業を通して様々な方と知り合うことができ、一緒に活動が続けることが出来ました。これからも様々なボランティアに参加したいです。



02 たむら まゆみ 田村真由美さん。

熊本地震のときは仕事をしていたのであまり参加できませんでしたと話す田村さん。被災地で何かお役に立てればと参加。

何度も活動続ける原動力

私の家庭では、幼い頃から母親が手作りの洋服を被災地へ送る活動などをしており、ボランティアはとても身近なものでした。現地に行ってみるとテレビで見るより、もっと被害が大きかったです。被災地の方々にお話を伺い、「スコップ一杯分の土砂出しだけでも助けになれば」と、継続して参加しました。

03 むかえ なおき 迎直樹さん。

自衛隊が被災地で活動している姿をみて、自衛官OBの自分にも、手助け出来ることはないかと参加。

出来る範囲で気軽にやってみる

被災地に行って被害の大きさを目の当たりにして、大変なことだと感じ、自分も出来る範囲でボランティアをさせていただこうと思いました。被災地では様々なボランティア団体が活動している中で、特に若い学生さん達の頑張っている真摯な姿に接し、70歳を過ぎましたが、「まだまだ若い者には負けれない」と思い、活動を続けました。